

平成 30 年 8 月 1 1 日

## アカツキファイブ女子強化試合観戦記

南部ミニバスケットボール連盟

会 長 藤原 敬一

8月7日（火）に高崎アリーナで行われた、女子日本代表 vs 女子カナダ代表との観戦記です。

ご承知のように、女子カナダ代表は FIBA ランキング世界5位の強豪です。因みに女子日本代表は世界ランキング13位です。

8月5日（日）には、新潟のシティホールプラザアオーレ長岡で1戦目が行われました。結果は73対70で日本が勝ちました。このゲームでは、日本代表の15番本橋選手の17点、41番根本選手の14点（3P4/7を含む）、52番宮澤選手の8点（3P2/5を含む）、0番長岡選手の7点（3P2/3を含む）の活躍が光りました。

さて、7日のゲームです。日本のスターターは、0番長岡（182cm）、7番水島（171cm）、8番高田（183cm）、13番町田（162cm）、52番宮澤（182cm）という布陣でした。対するカナダのスタートは5番ヒル（178cm）、6番カールトン（185cm）、9番アィム（191cm）、13番コーリー（175cm）、14番ポッター（198cm）の5人でした。

第1ピリオド日本は、13番町田のミドルを皮切りに、8番高田のフリースローや52番宮澤の3Pが、3本立て続け決まり、リードする。一方カナダは、日本の執拗なディフェンスやリバウンドに手こずりシュートが中々決まらない。その後も日本は、7番水島のドライブイン、0番長岡のミドルで突き放す。残り時間3分を切ったところで、15番本橋、24番藤高、30番馬瓜、39番赤穂(さ)、99番オコエに全員交代する。メンバーが代わっても15番本橋や39番赤穂のミドルシュートが決まる。第1ピリオド終了時、25対11で日本がリード。

第2ピリオドに入っても日本の勢いは止まらず、24番藤高に代わって入った88番赤穂(ひ)が、チャレンジショットに跳んだり、ミドルシュートを決めたりしてリードを広げる。時間経過に伴い、交代をしながら怪我で出場できない、1番藤岡以外はすべてコートに立った。カナダはスクリーンを使い、中に合わせたり、9番アィムや14番ポッターがポストで攻めたりするが、単発となり点差を縮めることができない。その間隙を縫って、日本は交代した41番根本や赤穂姉妹が着実に得点を重ねる。

第2ピリオド終了時、46対23で日本がリード。

第3ピリオドは、カナダの9番アィムがポストからのミドルを立て続けに決める。4番ラングロアの3Pや13番コーリーのミドルも決まり勢いづく。対する日本は、ややシュート確率が落ちたが、宮澤、本橋、馬瓜のミドルやカットインで対抗する。第3ピリオド終了時、63対42で日本がリード。

第4ピリオドは、日本の根本の3Pからシュートラッシュとなる。圧巻は17番三好の3P、3本連続である。赤穂の2Pや馬瓜の3Pも決まりリードを広げる。カナダは、何とか流れを引き戻そうとしてディフェンスをオールコートプレスにするが、思うように得点が伸びない。アィムのポストシュートや、キス・ラスクやジェロームのミドルシュートで食らい付くが、日本が落ち着いてボールを運び、流れを相手に渡さずタイムアップとなる。88対50で日本の勝利。

終始安定したシュート力と、5人の連携の取れたディフェンス力で女子日本代表が危なげなく勝利を掴んだ。次号で日本の強さについて書きます。